

2021年度からの中期活動計画（2021年度～2023年度）

2022年6月9日更新

V70 「All for Society ～社会を支えるバルブ産業の更なる進化のために～」

分野名	テーマ	実施項目	担当組織	活動目標 (目指す姿)	2021年度 活動計画	2021年度 活動成果	2022年度 活動計画	SDGsの該当項
1. 次世代へつなげる 新しい働き方への 転換 <背景、課題、リスク> 労働力・労働人口の減少 ・働き方改革 （ものづくり、業務） ・人財育成 ・定年延長 健康寿命の 延伸 ・高齢者の就労促進 ・女性の就労環境の改善	◇生産・加工・設計・評価技術の人財力の強化	①中堅社員の育成（技術委員会と連携し技術・能力向上の研修メニュー作り） ②女性活躍（バルブ女史PJで活動） ③シニア活躍（人財バンクの体制づくりを検討し再活躍できる場の創設） ④次世代育成（経営者層は清流会で活動。中堅社員が幹部職になるための科目づくり） ⑤研修事業体系化（研修科目をメニュー化し、選択しやすい体制づくり）	人財育成委員会	①会員企業の技術力向上を底上げするため、必要なスキルやレベルが把握できるような年間の研修メニューが計画的に立てられている。 ②会員企業が年間の受講計画を立てやすいよう、ニーズがある科目の過不足がない研修メニューができています。	①会員企業の主要メンバーに育成上の課題を聞き取り、研修ニーズを把握して、バルブ塾の新規カリキュラムを実施 ②会員企業における「シニア人財の再活躍」に向けた課題を聞き取り、再活躍プログラムを検討。また、「人財バンク制度」の新設に向けたフレーム作りを進め、推進計画を作成 ③会員企業の幹部候補人財による「テーマ活動」や交流を通して、幹部職人財の育成に寄与	①バルブ塾の企画・主催。 1) 原価計算 2) 法規〔水道法、PL法、高圧ガス保安法〕 3) 鋳造 4) 生産管理 ②バルブ塾講義科目のニーズ調査を実施。技術委員会と担と進め方を協議して研修活動に反映 ③シニア人財活躍推進活動として、講演会「シニア人財がイキイキと働き続けられる社員づくり」を東京支部と共催 ④経営者へ人財活躍（主にシニア人財）の課題を聞き取り、シニア人財の再活躍プログラムに随時反映 ⑤外部で実施中の研修会について、会員企業へ紹介	(継続) ①バルブ生産・周辺技術の知識習得を目的とした“バルブ塾”の企画・主催 ②会員企業内外の経営者への人財活用の課題聞き取りを実施し、制度づくりや交流会を検討 ③外部で実施中の研修会について会員企業への紹介活動を実施（強化） ④会員企業のシニア人財の再活躍プログラムを実施（新規） ⑤研修ニーズをベースに技術委員会・人財育成委員会及び外部企業・団体の活用への具体化を推進 ⑥他組織と情報共有のうえ、研修メニュー体系化に向けた検討	3. すべての人に健康と福祉を
	◇安全、安心で誰もが働きやすい職場づくり ・災害・事故の無い、安全で健康な職場づくり	①労働災害実態調査の継続による実態の分析と改善成果の分析、及び、安全に関するPR ②バルブ安心安全ネットワーク活動の実施、参加企業の拡大 ③会員による安全大会/事例報告会の開催 ④労働安全標語コンテストの開催 ⑤会員における労働安全衛生マネジメントシステム導入の推進（意識調査の実施など） ⑥健康経営推進へのアプローチ	安全衛生委員会	①他業種よりも安全な業界を実現できている。 ②業界の実情や取組内容を対外向けにPRできている。 ③安全衛生委員会が、会員の労働安全衛生向上のための情報提供などのサポートを行っている。 ④バルブ安心安全ネットワークが多くの参加者にとって有益な活動となり、自発的な活動が定期的に継続開催されている。 ⑤会員の3/4以上がバルブ安心安全ネットワークに加入し、積極的に参加している。 ⑥健康経営ネットワークが実現できている。	①労働災害実態調査の実施と報告書の発行 ②バルブ安心安全ネットワークの継続的な定期開催 ③バルブ安心安全ネットワーク活動を通じた企画を実施 ・セミナー開催（労災対策、ISO認証取得対策、健康&メンタル、等） ・先進事例ヴァーチャル見学会開催	①労働災害実態調査報告を21年8月に発行。回答76社を総合した度数率は0.62、強度率は0.01（参考：厚労省調査による製造業平均は度数率1.21、強度率0.07） ②バルブ安心安全ネットワークミーティングを4回開催。参加者数は平均53名。主に次のテーマによる意見交換を実施。 ・事故事例とその対策について ・他人ごとじゃない！ヒヤリハット事例紹介 ・映像でみる各社の安全対策と課題	①労働災害実態調査報告の発行と次回調査の実施 ②バルブ安心安全ネットワーク活動の拡充（21年度末時点で49社55名が登録） ③健康経営推進に向けた取り組み（セミナー開催など） ④外部に向けた当委員会及びネットワーク活動のPR	8. 働きがいも経済成長も
	◇多様な人財が活躍する職場の実現	①NW活動に伴う企業間交流による女性人財の育成（活躍機会の創出） ②HPを活用した会員企業への啓発活動 （講習会、工場見学等の活動報告による身近な好事例の情報発信。活動の見える化の推進） ③バルブ女史NWロゴマークの活用女性活躍推進のシンボルマークとして、普及・定着の推進	バルブ女史 NW	①会員企業の女性社員が参加しやすいイベントの企画立案および提供を行い、NWメンバーのイキイキ度や成長度が向上できている。 ②NW活動を業界内外へ広く周知することにより「女性が働きやすい業界」のPRができています。 ③NWメンバーが情報の“ツナギ役”として、セミナー等で得た女性活躍推進に関する知識の展開、意見交換が実施できている。	①webサイトを利用した女性活躍推進および環境づくりに関する事例紹介、関連法令等の参考情報の共有 ②今後開催するセミナー、経営者インタビューに関する情報収集・分析 ③会員企業訪問（意見交換会）の実施	①女性活躍推進および働き方改善情報等に関するwebサイト掲載内容の見直しおよび情報更新 ②経営者インタビューの実施および実施内容のwebサイト掲載による参考事例の情報共有 ③男性上司向けセミナー実施に向けた企画・立案 ④メンバー3名の新加入によるNW活動活性化の促進	①男性上司向けセミナーの計画および実施 ②経営者インタビューの計画および実施 ③会員企業訪問（意見交換会・見学会）の計画および実施 ④上記実施内容のwebサイト掲載による有益情報の共有	5. ジェンダー平等を実現しよう
	◇次世代経営者人財育成、事業承継	①若手経営者のネットワーク継続・拡大 ②先輩経営者との交流、勉強会	清流会	若手経営者ネットワークの深化と更なる拡大を図り、若手経営者の人脈づくりに寄与できている。（毎年度ごとにメンバー数増）	①先輩経営者との座談会 ②メンバー企業の見学	活動計画①、②ともにコロナウイルスの影響により実施できていない。引き続き22年度の計画とする。	①先輩経営者との座談会 ②メンバー企業の見学	

分野名	テーマ	実施項目	担当組織	活動目標 (目指す姿)	2021年度 活動計画	2021年度 活動成果	2022年度 活動計画	SDGsの該当項
	◇技術、技能の向上と企業間の技術情報の共有化	①特定技術に対する技能認定制度づくり (例：鑄造技術など)を導入。 ②関連省庁・団体マップを活用した有識者との繋がりを強化	技術委員会	①技能評価への権威付けが図られ、業界の地位がさらに向上している。 ②企業ブランドが向上し、バルブ産業の振興に貢献できている。 ③従業員のモチベーションアップにつながり、人材定着できている。	①バルブの基礎知識習得を目的とした“バルブ初級研修”を会員向けおよび公開講座として企画・実施 ②バルブ業界の必須スキルを把握するため、人材育成委員会、および外部団体や研究者の方の協力のもと、標準的なスキルマップ(素材、加工、組み立て、評価、設計)を作成し、技能認定制度の導入を検討 ③銅合金の鑄造技術に関する技能認定制度づくりのためのWG活動を開始	①バルブ便覧第2版を発刊(2021年6月15日) ②バルブ初級研修の企画・主催 1) 会員向け 2) 公開講座(基礎編) 3) 公開講座(問題解決編) ③会員企業及び外部で実施中の表彰制度の現状把握	①“バルブ初級研修”を会員向けおよび公開講座として企画・実施 ②外部で実施中の技能認定制度・表彰制度を会員企業へ紹介 ③バルブ業界で活用できる標準的なスキルマップの内容を確認し、研修メニュー体系化に向け検討	4. 質の高い教育をみんなに

分野名	テーマ	実施項目	担当組織	活動目標 (目指す姿)	2021年度 活動計画	2021年度 活動成果	2022年度 活動計画	SDGsの該当項
2. 未来の社会に貢献できる先進的な技術と商品づくり <背景、課題、リスク> 日本市場の縮小 地政学的危機 バルブに精通し、正しく取り扱えるユーザー減少 次世代情報技術や先進技術の早期導入 5G 光通信 AI IoT DX カーボンニュートラル 水素技術	◇国際競争力を高め、信頼性の高いブランド力の強化	国内・国際規格開発	水栓部会	①国際標準：日本に有益なISO PC316(節水規格)の規格発行により、給水栓分野の国際競争力の確保を達成している。 ②逆流防止に関する調査：世界各国の逆流防止の基準、法規、システムなどを調査し、調査報告書としてとりまとめる。これをもって、国内メーカーの逆流防止に関する技術力向上と国内規制の強化に備えることが出来ている。	①ISO PC316(節水規格)の規格検討と国際会議に参加し日本意見を発信する。 ②調査のためのWGを発足のうえ、関連団体の調査報告書の精査、調査内容と対象国の絞り込みを実施する。	①ISO PC316の国際会議に参加のうえ、規格審議において積極的に日本意見を発信した。規格審議は21年度で完了し、ISO 31600(仮称：水効率ラベリングプログラム)として2022年に発行予定である ②WGを発足のうえ関連省庁の報告書の精査を行った。また、欧州の情報調査のためEN 1717(給水設備における飲料水の汚染防止及び逆流防止装置に対する要求事項)の和訳作業を行っている	①関連団体と協力しISO 31600(仮称：水効率ラベリングプログラム)の和訳を進める ②EN 1717の和訳の作成を完了する。EN 1717と国内規格との比較及び差異の明確化と課題の抽出を行う	6. 安全な水とトイレを世界中に
	◇ユーザーニーズに即した商品づくりや関連団体との協業	①会員企業が役立つガイドラインの策定 ②継続的な情報公開、セミナーによる啓発とコミュニケーション	バルブ部会	①業界団体としての活動を生かし、関連団体との定期的な意見交換会の仕組みができ、事業活動に生かしている。 ②バルブ設計や評価に役立つガイドラインが会員やユーザーに常に活用されている。 ③ユーザーにとって役立つ勉強会やセミナーが計画的に開催されている。	①関連団体の選定と打診 ②部会内推進体制の検討と年間計画化 ③ガイドラインのテーマの作成	①技術委員会との協力により「バルブ初級研修公開講座～問題解決編」を開催 ②JV3(バルブユーザーガイド)改正に着手 ③JIS B 2003(バルブの検査通則)改正に着手 ④22年度からの活動強化に向け、部会幹事会を再編	①バルブの予防保全に関するユーザー向け周知用冊子制作(建築用分科会) ②関連団体との意見交換の実施、交流の促進 ③JV3(バルブユーザーガイド)改正、及び、JIS改正素案作成の推進 ④部会員ニーズや共通課題の把握、的確な対策の実施	
	◇ものづくりの労働生産性向上・少子高齢化の流れの中、人手に頼らないものづくり	①IoT、AIを導入し、自動化・ロボット化・省人化・デジタル化を推進 ②研修メニューへの積極的な参加を促進	自動弁部会	①中小企業においてもIoT、自動化などを行い、技術力・生産性の向上を推進させることを計画できる企業が増えている	オンラインによる先端技術見学会、ショッパツツアーを開催	①IoT、ビッグデータ、スマート化の推進・技術情報の共有、オンライン見学会実施のノウハウについて知見を深めることを目的とした先端技術見学会の企画・主催 1) 武藤工業(株)、Web活用経営(株) 2) ナラハラオートテクニカル(株)、(株)米山製作所	①先端技術見学会、ショッパツツアーの企画・主催	12. つくる責任、つかう責任

分野名	テーマ	実施項目	担当組織	活動目標 (目指す姿)	2021年度 活動計画	2021年度 活動成果	2022年度 活動計画	SDGsの該当項
3. 社会全体の脅威・リスクに対応できるサプライチェーンとサステナビリティの強化 <背景、課題、リスク> 地球環境の変化（温暖化） 甚大災害、感染症の拡大 環境規制の強化 地球環境の変化（温暖化）	◇災害、感染リスクに対応できるレジリエント（強靱）な企業経営	①簡易版BCPとも称される事業継続力強化計画認定制度（中小企業強靱化法による経済産業大臣認定制度）などの周知 ②事業継続力強化計画の認定取得率向上	清流会	①会員企業の事業継続力強化計画認定制度などの認知率が向上している。 ②会員企業（サプライチェーン含む）の事業継続力強化計画の認定取得率が向上している。	①メンバー間での事業継続力強化計画認定制度のケーススタディの実施。 ②事業継続力強化計画認定制度の認知度確認のための会員向けアンケートの実施	①認定制度の内容及び実際の申請方法などについて、既に申請済のメンバーの情報を共有し理解を深めた ②認定制度の認知度及びBCPの策定状況について会員向けにアンケートを実施し、今後必要な施策の参考とした	①会員向けアンケートの回答内容を基に、認定制度またはBCPに関するセミナーを開催する	11. 住み続けられるまちづくり
	◇環境負荷の少ないものづくり、環境意識の高い職場づくり ◇守りの環境規制対応から攻めの環境経営への移行	①環境配慮バルブ登録制度改良&認知度向上 ②会員の環境対策実施の支援、環境人財の育成 ③環境規制に関する情報発信・情報収集の強化 ④環境活動調査継続による現状分析 ⑤バルブ製品アセスメントガイドラインの改訂	環境委員会	①環境配慮バルブ登録制度の登録社数が23年度末までに20社以上になっている（対20年度比2倍以上）。 ②工業会が、会員の環境目標設定とその達成の支援を行っている。 ③会員の環境への取組みを、工業会HP等を通じてPRできている。 ④バルブに関する環境規制情報を会員に提供できている。	各WGがそれぞれ次の活動を進める。 【企画調査WG】 ①環境活動調査実施及び報告書発行 ②セミナー開催（年2回予定） 【環境配慮設計推進WG】 ①環境配慮設計の実施と環境配慮バルブ登録制度への登録定着化 ②バルブ製品アセスメントガイドライン第4版発行 【環境広報WG】 ①環境関連情報の収集及び環境メールマガジン配信 ②環境Q&Aの作成	①ウェビナー「バルブメーカーの環境対策」を開催（受講者：41名） ②環境活動調査を実施（67社回答）、及び、「環境活動報告2021」発行（2021年12月） ③「バルブ製品アセスメントガイドライン」第4版発行 ④会員向け環境メールマガジン発行開始 ⑤Webサイトに「環境Q&A」公開 ⑥会員企業への環境関連情報提供（Webサイトに毎月2本の記事を掲載）	①カーボンニュートラル推進のための諸施策の検討（セミナー開催など）及び、工業会目標設定の検討 ②環境活動調査実施と「環境活動報告2022」制作。 ③環境配慮バルブ登録制度の改善（登録製品リストリニューアル、会員向け利用マニュアル改定等）と登録社数増 ④環境メールマガジン、Webコンテンツ「環境Q&A」の拡充	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 13. 気候変動に具体的な対策を 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 12. つくる責任、つかう責任

分野名	テーマ	実施項目	担当組織	活動目標 (目指す姿)	2021年度 活動計画	2021年度 活動成果	2022年度 活動計画	SDGsの該当項
4. バルブ産業の認知度向上 <背景、課題、リスク> 人財確保（獲得） 会員数の維持 素形材関連団体以外との業界連携	◇産官学の連携向上 ◇学生、中途の人財獲得	①企業紹介・データ提供を活発化し社会へ会員企業の姿をアピールする方法を行う ②安心安全・環境貢献・次世代育成を強化し会員企業が発展できる広報活動を行う ③従業員・学生の確保のため、魅力的なバルブ産業の認知度を向上・継続させるような広報活動を行う ④事務局で行っている発信ツール（ホームページやJVMAネクスト）とも連携する	広報委員会	より広報活動を活発化させ、一般・会員企業のニーズに応えられる情報を、必要ときに必要な内容が発信でき、優秀な人財を会員企業が継続的に採用できている。	①広報ツールの見直し（新聞掲載→SNSを活用した広報ツールの強化を検討） ②行政との連携拡大 ③工業会パンフレットの刷新・活用 ④「ばるちゃん」および「バルブの日」の活用方法の見直し	①第11回バルブフォト五七五コンテストの企画・主催 ②“バルブの日”新聞特集企画を実施 ③広報ツールの見直しを行い、事務局の発信ツールとメルマガの連携強化、パンフレットの内容修正や新規動画の制作について検討。また、SNSの活用に向けた検討会を開催	①バルブフォト五七五コンテストの企画・実施。 ②SNSを活用している委員各社の若手人財で構成されるSNS検討WGを新設 ③行政との連携拡大を検討 ④「ばるちゃん」および「バルブの日」の活用方法の見直し	
		技報テーマの拡大	バルブ技報編集委員会	バルブ技報の在り方を検討し、会員企業の幅広い層に届く情報が掲載できている。	①誌面の在り方を検討（技術誌としての内容以外に、広報誌としての在り方を検討） ②省庁・大学関係者からの執筆を増やし、技術者に役立つ先端技術の掲載を検討 ③70周年事業に向けてのコラム掲載 ④販売数を増やすためのホームページ改善を検討	①バルブ技報の特集テーマ及び執筆依頼先の検討・編集・発刊。 1) 「計測、画像処理」、ミニ特集：「樹脂」 2) ミニ特集：「DX」、ミニ特集：「バルブ関連の団体（機関・協会等）」	①バルブ技報のテーマ策定と編集・発刊 ②編集委員会の目的・立ち位置の再確認 ③誌面の在り方を検討（技術誌としての内容以外に広報誌としての在り方を検討） ④省庁・大学関係者からの執筆を増やし、技術者に役立つ先端技術の掲載を検討 ⑤70周年事業に向けてのコラム掲載を検討（販売数を増やすための施策は、webサイト改善と連動させる）	